

# 消防学校だより

## 令和2年3月号

発行年月日 令和2年3月26日  
発行 宮崎県消防学校

### ★第59期初級幹部科

3月2日(月)から3月13日(金)で、今年度の教育訓練としては最後の課程となる初級幹部科を実施しました。

新型コロナウイルスの流行の中、予防対策を強化しての実施でしたが、専科以外の特別研修等は中止しました。

また、今年度で派遣の任期を終える藤野教官にあっては、最後の担当科となりました。



### ●火災救助基本訓練

訓練実施時の確認として、基本訓練を実施しました。

消防学校では、救助操法の基準を遵守し、詳細は図解救助操法の基準で訓練を実施しており、各学生が共通認識のもとで訓練が実施できるように実科訓練を行う専科では必ず行います。



## ●消防メンタル

3月3日(火)、株式会社 タフ・ジャパンの 鎌田 修広 氏 に御講義いただきました。

心の変調は身体に影響します。身体の変調も心に影響します。心・絆・体を通じて強靱な土台と軸を築き、生涯現役の消防人育成を目指します。



## ●職場・職員のコミュニケーション

一般財団法人 ペップトーク普及協会の遠阪有太郎氏に元気・活気・勇気を与えるトーク術と題して御講義いただきました。

「Pep Talk」ペップトークとは、選手、生徒、部下などを励ますのに監督やコーチなど指導者が試合前(本番前)に使う「激励のショートスピーチ」のことです。

「Pep」は英語で、元気・活気・活力という意味で、好印象を与える接し方などを学びました。



## ●消防実務管理・消防の取り組み

人材育成について熊本市消防局 警防部警防課長 中村 雅司 氏に初級幹部職員の職務や、幹部に必要な資質などについて御講義いただきました。

講義の中で、幹部の資質って「何」？と題したものがあり、絶対に必要なものとして「消防愛」「組織愛」とおっしゃっていました。確かに、組織の要となっていく職員が自らの職種、組織を愛せなければ良い方向には向かいません。

出来ない理由ばかり述べるのではなく、出来る方法を考える職員となり、部下、後輩職員目標となる消防士長になってください。



## ●指揮シミュレーション

火災現場における指揮活動を通じて、基本的活動要領の習熟を図る。木造家屋における指揮訓練を実施し、現場指揮技術の向上を図ることを目的として行いました。



## ●火災現場指揮訓練

耐火造建物火災における指揮訓練を繰り返し実施することにより現場指揮技術の向上を図ることを目的として実施しました。

指揮者として、火災現場における三大危険を把握し、現着時の情報収集要領や、隊員への活動下命などを訓練しました。



## ●学生企画想定訓練

初級幹部科訓練の成果確認として学生企画訓練を実施しました。

想定は、耐火構造2階建て住宅からの出火と、耐火構造3階建て工場兼住居からの出火という2想定を行い、現場指揮者として指揮宣言をし、災害状況の把握を行った後に活動方針を決定し活動を行いました。

人命危険や作業危険、延焼危険などの危険情報を把握できるようにし、災害現場における受傷事故が起こらないように心掛けてほしいです。



## ●課題発表

各所属の課題について発表を行いました。

地域の実情や、所属規模、役職や年齢といった様々な要因で課題は異なり、各所属の異なる課題を聞くことで、自らの課題克服に繋げてください。

また、決められた様式、時間で相手に自らの意見を伝えるスキルは、階級や年齢が上がれば重要度を増すので、相手に伝わるように話す事を意識してもらえればと思います。



## 人命救助表彰



今年度初任科(第64期生)卒業の 前園 巧光 消防士 (西諸広域行政事務組合消防本部)が、令和2年2月(非番日)に宮崎市内で人命救助(救命)を行い、傷病者は後遺症もなく退院し社会復帰を果たしたという事で、宮崎市消防局より表彰を受けました。

## 令和2年4月の主な行事

4月7日(火) 第65期初任科入校式

宮崎県消防学校

担当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp